

最優秀賞

日揮社会福祉財団ふれあい賞

手話教室が教えてくれたこと

横浜市立平戸小学校

六年 森山和奈

「耳の不自由な方たちは、大丈夫かな。」

今年の一月一日に起きた、能登半島地震の被災地の様子や避難所の様子をテレビで見ても心配になりました。昨年、戸塚区社会福祉協議会の手話体験講座を受講し、耳の不自由な方は、外見では耳が不自由とは分かりにくく、困っていても周りの人に気づかれなかったり、災害が起きたときは、正しい情報が得られないなどで、とても不安な思いを持っているということを学んだからです。もし災害が起きて、手話が上手にできたら、耳の不自由な方の力になれるかもしれないと思い、手話教室に通うことにしました。

手話教室で学んだことが、二つあります。一つ目は、「自信を持ってコミュニケーションす

ることの大切さ」です。正しい手話を覚えていないと、正しく伝わらなかつたり、全く別の意味になってしまいます。あいまいな手話表現をせず、自信を持って表現できるよう、動画やテキストでしっかり手話を身につけたいです。二つ目は、「相手のことを思いやりながらコミュニケーションすることの大切さ」です。私がうまく手話の表現ができなくて不安になっていたとき、手話教室の先生が、優しい笑顔でいてねいに教えてくれたり、明るい笑顔ではげましてくれました。言葉はなくても、表情から先生の気持ちや伝わり、心が温かくなりました。相手を思いやることで、自然と気持ちは表情に表れるのだと気づかせてくれました。

手話教室は、手話だけでなく、コミュニケーションをする上で大切なことも教えてくれました。毎日の生活にも、活かしていきたいです。そして、災害はいつ起こるか分からないからこそ、これからも手話の勉強を続けたり、周りの方たちに目を配り、相手を思いやる気持ちをもち続けていきたいです。